

## 朝鮮民主主義人民共和国

### ホワンヘッド 黄海道両道における飢饉と食糧状況の報告 [2012]

アジアプレス・インターナショナル / 北朝鮮取材チーム  
ASIAPRESS INTERNATIONAL / North Korea Reporting Team

この[黄海道報告書]を、記事、文献などに引用することは自由にできますが、使用する際は、必ず出典(アジアプレスまたはASIAPRESS)を明記してください。  
報告書の複製、転売、流用はできません。  
掲載されている写真につきましては、著作物使用料が発生しますので、メディアなどご使用を希望される場合は、事前にアジアプレスまでご連絡ください。



アジアプレス・インターナショナル 北朝鮮取材チーム

〒530-0021

大阪府大阪市北区浮田

1-2-3 サヌカイトビル303 JAPAN

TEL/FAX (06) 6373-2444

osaka@asiapress.org

**ASIAPRESS INTERNATIONAL - North Korea Reporting Team**

Sanukaito BLDG 303, 1-2-3

Ukita, Kita, OSAKA, #530-0021,

JAPAN

FAX +81-6-6373-2444

osaka@asiapress.org

## プレスリリース

黄海南北道の穀倉地帯における飢饉について、国際社会の注意と関心を喚起します。

2013年1月 アジアプレス・インターナショナル北朝鮮取材チーム

2012年度、平壤南西部に位置する黄海南北道で飢饉が発生し、詳細は不明であるが多くの死亡者が発生した。その原因は、軍隊と首都平壤市民への配給食糧を確保するために、北朝鮮随一の穀倉地帯である同地で生産された米やトウモロシなどの食糧が、大量に搬出されたため、一部の農村で絶糧状態になったためである。アジアプレスは昨年3月から同地での飢餓の発生に気付き、継続して現地住民たち、労働党幹部たち、病院幹部に取材し、飢饉の発生を確信した。我々は一万人以上の死者が出たものと推定している。

同地での飢餓は、2012年の1月から5月までピークであった。6月にジャガイモの収穫が、9月にはトウモロシの収穫があつて最悪の状態はひとまず脱したようである。ただ、昨年は北朝鮮各地で旱魃や大雨の被害があつて、農業生産に支障が出た地域があり、主食の米やトウモロシの収穫が平年に比べて減った可能性がある。もし、北朝鮮当局が今年も、黄海南北道の農村から食糧の過剰な搬出を強行した場合、同地において再び餓死者が発生する悲劇が繰り返される可能性があることを指摘したい。

国連の世界食糧計画(WFP)と食糧農業機関(FAO)は昨年11月発表した報告書で、北朝鮮の2012～2013年の生産量はコメが前年比11%、トウモロシは10%、それぞれ増加したと推定している。また、EUの調査団が昨年10月に訪朝し食糧事情を調査した結果、緊急支援を必要とする状況ではないとの結論を出したとされる。これらの機関の調査通り、昨年の食糧生産が増加したのであればとても幸いなことである。しかし、国際機関の調査に対して、北朝鮮当局は厳しい制約を課し、虚偽の情報提供が疑われるのが過去の例であつたことを考えると、黄海南北道で、今年も飢饉が発生する可能性があることに注目を促したい。

アジアプレスとは別のメディアも昨年、黄海南北道地域での飢饉発生に言及している。

・日本の毎日新聞は6月の記事で北朝鮮貿易関係者の証言を引用する形で次のように指摘した。「朝鮮労働党指導部が3月中旬作成した内部文書で、餓死者発生原因を「軍のための過度の食糧供出のためと認めた」。

・韓国の北朝鮮専門ニュースサイト「デイリーNK」も5月に黄海南北道住民とのインタビューを通じて餓死者の発生を報じている。

・日本の東京新聞は4月に、北朝鮮内部の消息筋の話として、2012年になって黄海南道で深刻な飢餓が発生し2万人が餓死したと報じている。

我々は国連機関、国際人道支援NGOに次の行動を急ぎ実行することを要請したい。

(1) 北朝鮮当局に対して、黄海南北道で2012年に飢餓が発生した地域での実態調査を認めるよう求めること。

(2) 北朝鮮当局に対して、黄海南北道で、今年食糧危機が再発しないよう、国際社会に緊急食糧支援、及び肥料、農薬支援を求めるよう促すこと。

※ 我々は、この報告書が実態調査として不十分であることを認める。それは黄海南北道が、北朝鮮の中で最も中国から距離の遠い地域であり、同地域の住民と接触して情報を得ることが最も困難な地域だからだ。現時点で、昨年発生した飢饉の規模や地域を正確に記すことは不可能であるが、黄海南北道の事態は極めて深刻であった可能性が高く、我々は不十分ながらも、同地域の人道危機の一端を国際社会に伝える必要があると考えた。

## アジアプレス・インターナショナル / 北朝鮮取材チーム

ASIAPRESS INTERNATIONAL – North Korea Reporting Team

アジアプレスは、日本に拠点を置く報道機関であり、ニュース、ドキュメンタリーを、世界のメディアに配信し、またテレビ番組等を制作している。その北朝鮮報道部門「北朝鮮取材チーム」は、20年ちかくにわたり、北朝鮮情勢を取材し、政治、経済情勢、食糧事情、人権状況、脱北者問題などを報じてきた。

この数年、外国メディアの取材が困難な国内情勢を、北朝鮮人たちとチームを組み、取材している。現在、北朝鮮国内で十数人の北朝鮮人がひそかに活動し、首都平壤をはじめ、地方都市から、証拠力ある確証性の高いさまざまな情報を伝えている。

取材チームは、政権が覆い隠す人権状況や過酷な国内の庶民の暮らしなど、当局の検閲を受けていない情報を国際社会に伝える一方、北朝鮮人たちと中国で接触し、記者として育成するプロジェクトも手がけている。

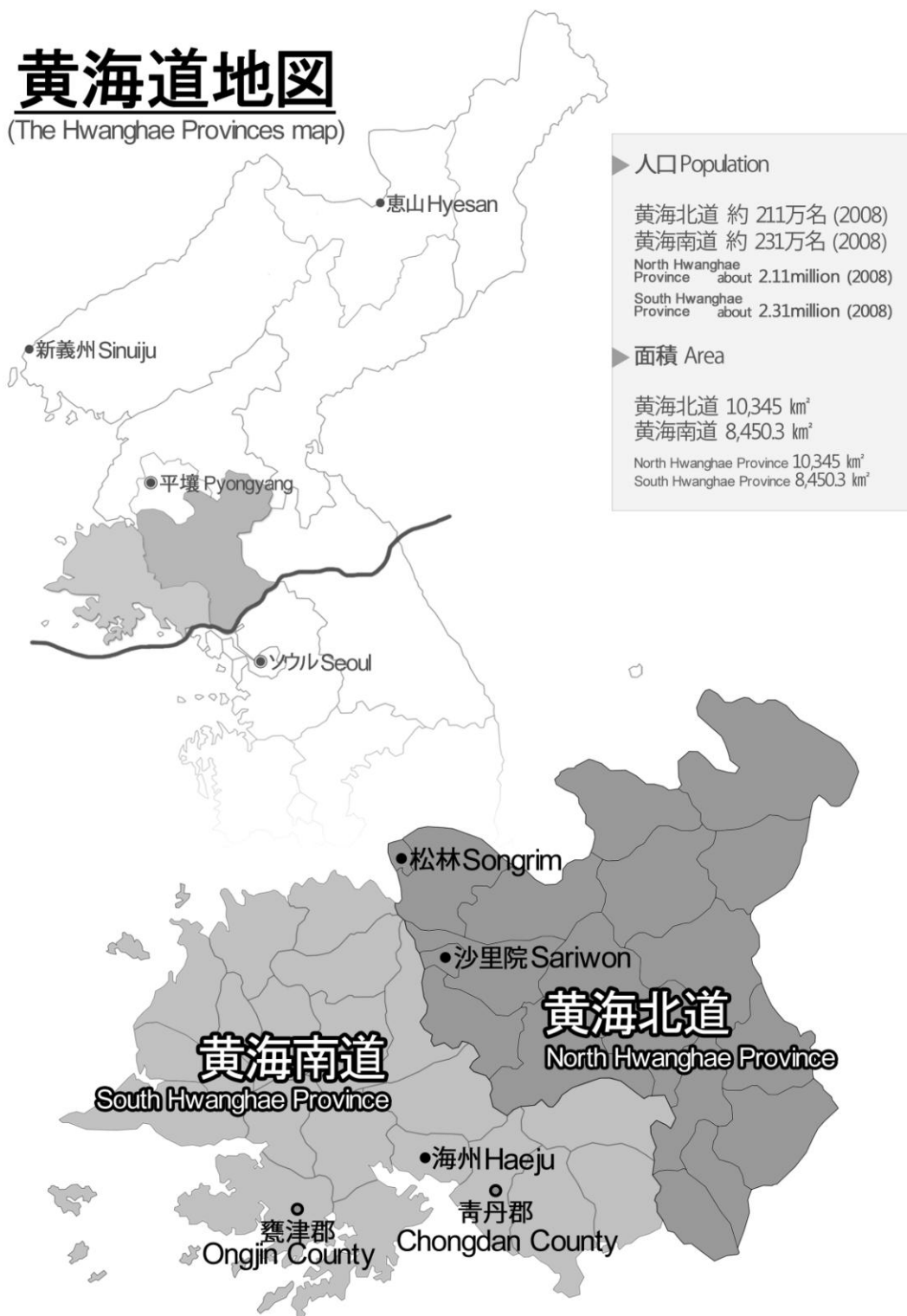
情報統制国家、北朝鮮において、当局による逮捕・投獄の危険を冒しながらも国内で核心に迫る報道を行う北朝鮮人を支援するこのプロジェクトは、自由な表現活動のためのジャーナリズムにも貢献し、多くの報道機関や国際機関からの評価も得て進められている。

[www.asiapress.org/apnnk/](http://www.asiapress.org/apnnk/)

[www.asiapress.org/rimjingang/english](http://www.asiapress.org/rimjingang/english)

# 黄海道地図

(The Hwanghae Provinces map)



▶ 人口 Population	
黄海北道	約 211万名 (2008)
黄海南道	約 231万名 (2008)
North Hwanghae Province	about 2.11million (2008)
South Hwanghae Province	about 2.31million (2008)
▶ 面積 Area	
黄海北道	10,345 km <sup>2</sup>
黄海南道	8,450.3 km <sup>2</sup>
North Hwanghae Province	10,345 km <sup>2</sup>
South Hwanghae Province	8,450.3 km <sup>2</sup>

ホワンヘッド  
[2012黄海道飢饉] 穀倉地帯で大量の餓死者発生 (PART 1)

数万死亡か 人肉事件の報告も

北朝鮮南西部の黄海道(ホワンヘッド)で 2012 年に入り大変なことが起こってしまった。この北朝鮮随一の穀倉地帯で、多くの餓死者が発生していたのである。金正恩氏が最高指導者の地位に就いて以降、「美しく発展する首都平壤」の様子が、北朝鮮メディアや訪問した外国人によって伝えられているが、その平壤の「華やかさ」の影で「<sup>かく</sup>匿されし飢饉」が発生していたのである。その実態の一端を報告し、発生原因について考察する。国際社会がこの「<sup>かく</sup>匿されし飢饉」に注目し、速やかな調査と対策に取り組むことを望むばかりだ。

(取材 石丸次郎 リ・ジンス ク・グァンホ ナム・ジョンハク)

2012 年に入って、我々アジアプレス北朝鮮取材班には、北朝鮮内部の取材パートナーたちから、黄海南道地域での食糧難についての報告が、次々と寄せられてきた。我々は 3 月以降、朝中国境地帯を度々訪れ、中国に出国してきた北朝鮮住民への聞き取り取材を行うとともに、北朝鮮内部の記者と協力者たちに、黄海道現地での詳しい実態調査を要請した。

また、8-9 月にも、約二週間にわたって朝中国境取材に赴き、合法・非合法に国境を超えてきた黄海道出身の 6 人に直接会った。これらの取材で明らかになったのは、2012 年に入り穀倉地帯である黄海道の農村を中心に、相当数の餓死者が発生しているということだった。いったい黄海道で何が起きているのか。北朝鮮住民による証言を紹介する。なお、取材者と証言者の安全のため、北朝鮮内の取材場所や地域名を伏せてある部分があることをご理解いただきたい。証言者は全て仮名である。(リ・ジンス 石丸次郎)

◇餓死者のピークは 4 月から 6 月

「恐ろしいことが起こっていました。私の村では昨日は 6 世帯、今日は 5 世帯から死人が出るというように、毎日バタバタと死んで行きました。飢えて全滅した一家もあれば、生きていくことに絶望して、家族皆で自殺した家もあります。もっとも酷かったのは 4 月と 5 月でした」。

人目を避けて待ち合わせた、中国遼寧省の場末の喫茶店で、黄海南道〇〇郡の農村幹部リム氏はこう語った。

4 月といえば、北朝鮮では故金日成主席生誕 100 周年が盛大に祝われている時だ。この行事に合わせ、平壤市内には再開発事業で高層ビルや大型娯楽施設が数多く建設され、金正恩氏の「指導者デビュー」プログラムも準備された。外国からはメディアを含め多くの招待客が訪れ、平壤の夜を焦がす派手な花火大会も挙行された。国民にもお祝いの特別配給

が支給されたい。リム氏の住む農村ではどうだったのだろう？

「複雑でした。国家的な祝日ではあるんでしょうけれど、目の前で人々が死んでいくのを見ると悲しさがこみ上げてきました。特別配給もたくさん貰えると皆舞い上がっていたのに、実際は砂糖 500 グラムにサツマイモ一皿、洗濯石鹸一つ、歯ブラシ一つなど、まったく期待はずれで、祝日を祝う雰囲気ではありませんでした」。

リム氏はそう言って目を伏せた。

7月に黄海道現地に入ったアジアプレスの北朝鮮内部の取材記者・具光鎬（ク・グァンホ）氏は、農村の様子を次のように語った。

「訪れた黄海南道の海沿いのある農村では、辺り一面に草が全く見当たらなかった。例年この時期にはヨモギ、セリ、ナズナなどが生い茂っているはずだが、生えてくるそばから皆食べてしまったと、現地の住民から聞いた。この時は、村の人口の 80%は一日二食以下で生活していたという印象だ。村人たちは、4月から5月にかけてかなりの人が死んだと言っていた」。

黄海南道〇〇郡の郊外で病院経営に携わるというパク氏の証言も、2012年に入って餓死者が続出したことを確認させるものであった。中国には出張で来たという彼は、病院の様子をこう振り返った。

「1月、2月と、それから5月が悲惨な有様でした。毎日、病院に死体が運び込まれてきました。周辺で行き倒れになったコチェビ（浮浪者）たちです。多い日には、一日に三体、四体も運びこまれて来るんです。その度に葬式を出す訳にもいかないので、死体が10体集まると合同で葬式を出すのですが、それでも週に2、3回は葬式を出していました。火葬するための薪も、お棺を作る材木も無いので、ただムシロに包んでトラックに載せて、郊外の空き地に穴を掘って埋めるだけです。墓標も何もありませんよ」

労働党の中堅幹部だというキム氏とも会うことができた。人目を気にする彼から話を聞いたのは中国・吉林省のある都市のホテルの一室。キム氏は、黄海南道一帯の農村で、党の方針を伝える任務を担っていると自己紹介した。

「5月から6月にかけて訪れた農村は、目を覆いたくなるような状況でした。何も食べ物がないんですから。老いた親を追い出したり、子どもを捨てたりというのも珍しいことではありませんでした」

こう述べた後、キム氏の口から出たのは、あまりにショッキングな事件についてであった。

「黄海南道の農村をくまなく回りましたが、最も悲惨だったのは青丹（チョンダン）郡です。あそこではいったい何割の人が死んだかわかりませんよ。青丹郡の花陽里（ファヤンリ）という村では、空腹でおかしくなった親が子を釜茹でして食べて捕まる事件がありま



した」

### ◇人肉食、密売事件が発生

今回の取材でとりわけ衝撃を受けたのが、人肉事件に関する証言が何度も飛び出したことだった。取材した黄海道住民全員が、人肉を食したり流通させた事件が周りで起こったと語ったのだ。

「私の村では、5月に子ども2人を殺して食べようとした父親が銃殺になりました。妻が商売で留守の間に長女に手を出したのですが、息子に目撃されたため、一緒に殺したのです。家に戻ってきた妻に『肉がある』と勧めたのですが、子どもの姿が見えないことをいぶかしんだ母親が、翌日保安部（警察）に通報すると、軒下から子どもたちの遺体の一部が見つかったそうです」（リム氏）

「死んだ孫の墓を掘り起こして、その死体を食べた祖父が捕まった事件があった」（ク記者）一方、北朝鮮当局も人肉を食したり売ったりする行為に対しては、厳罰を持って臨んでいるようだ。

「海州（ヘジュ、黄海南道最大の都市）では5月に、11人を殺しその肉を豚肉として流通させた犯人が銃殺された」（リム氏）

これ以外にも、人肉食事件に関する証言をいくつも耳にした。このようなおぞましい人肉事件の噂が広まったのは、警察沙汰になって事件が公然化したためである。また、人肉事件はそれまでまったく聞かなかったと、証言者たちは口を揃えた。

### ◇死者は万単位

それでは、いったい、2012年に入り黄海道ではどれくらいの人々が命を落としたのだろうか？

「私の村では一つの作業班60世帯のうち、約1割が死んだ。周辺の農村の状況も似たようなものだろう」（リム氏）

「私住んでいる都市部では、農村よりは死者が少ないが、郊外の農村を観察していると、300世帯の村で、常に3世帯ほどが喪中だった」（パク氏）

「ある農村で幹部に聞いたところによると、2012年に入って死亡率が1000人中30人で、例年の30倍も高いそうだ」（キム氏）

餓死者の正確な統計が存在するわけではない。我々が取材した黄海道の住人は6人に過ぎないし、「どれくらいの人が亡くなったと思うか」問いに、彼らも伝聞と印象で答えるしかなかった。我々の取材に限界があるのは明らかだ。しかし、個別に会った彼ら現地住民が



語る凄惨な飢餓情報から、残念ながら、黄海道の広い地域で相当数の餓死者が発生したのは間違いないと確信するに至った。なお、6月に入りジャガイモと麦、ほうれん草など野菜の収穫があって、飢え死にする人の数が減ったというのも、彼らの共通した証言であったことを付記しておく。

2008年に国連機関が北朝鮮当局と合同で行った全国人口調査（編注：人口が1割以上「水増し」されている疑問が多く提起されている）によると、穀倉地帯の黄海南道の農村地域には約150万人が住むとされている。そこで仮に死亡率が1%だとしても、1万人以上がこの世を去ったことになる。黄海北道の農民や、都市部で底辺生活を送る人々までを含めると、その数倍が命を落とした可能性がある。軽々しく死亡者数に言及するのは慎みたいが、我々は2012年に入って黄海道で少なくとも、万単位の人が亡くなったのではないかと推測している。これはもはや「食糧難」ではなく「飢饉」である。

さて、前述したとおり、黄海道で多くの人が飢えて死んでいたまさにその時に、平壤では金正恩氏を体制の世襲後継者として披露する大イベントが行われていた。いったい、金正恩氏の登場と飢饉はどのような連関があったのだろうか？なぜ穀倉地帯で多くの人が飢えるという現象が発生したのだろうか？

## (PART 2 につづく)



平安南道で撮影された、栄養失調でがりがりに痩せ細った兵士の一団。後方に移送中の工兵部隊。2011年7月 具光鎬(ク・グァンホ)撮影 (C)アジアプレス

## [2012 黄海道飢饉] 穀倉地帯で大量の餓死者発生 (PART 2)

### 農村の飢餓 その原因を探る

生産者である農民たちが餓死している…この衝撃的な報せに接し、我々取材班は、その原因について調べ始めた。接触した黄海道の住民たちは口々に『「軍糧米」『首都米』名目で農村にある食糧をすべて持っていったからだ』と証言する。さらに、金正恩氏の「指導者デビュー」に伴う莫大な浪費が穀倉地帯に過度の負担を強い、多くの農民たちを絶糧状態に追い込んだのだった。飢餓の発生原因を証言から探る。(リ・ジンス 石丸次郎)

### ◇壮絶な農民からの収奪現場

穀倉地帯である黄海道の協同農場では、この5、6年、軍隊と農民たちが、まるで収穫物を取り合うような様相が続いている。部隊の食糧を確保しようという軍隊と、飢えを回避するために隠匿してでも生産物を確保しようという農民たちの「戦い」である。それが2012年、極めて深刻な事態にまで発展してしまった。

「農村の幹部から保安員（警察）、検察官たちまで全部出てきて、すごい剣幕で『軍糧米』を集めていきました。農家を訪ね歩いては、あれこれ詮索、搜索し、隠している食糧が無いか家中ひっくり返して行くんです」

こう目撃談を語ったのは、黄海南道〇〇郡郊外で病院経営に携わるパク氏だ。役人たちは先の尖った鉄の棒で住民たちを脅しながら、少しでも多くの食糧をかき集めようとやっきになっていたという。

また、2012年に入り三度、黄海南北道の農村地帯を取材したアジアプレス北朝鮮内部記者の具光鎬（ク・グァンホ）氏も、2月当時の現地の様子をこう振り返っている。

「本来なら干されているはずの稲束が、村には一切見当たりませんでした。乾燥させる過程で農民たちがぐすねて軍の取り分が減るからと、収穫後すぐに軍が持って行ってしまったそうです」。

黄海南道の農村一帯を回り、労働党の方針を伝える任務を担っている中堅幹部キム氏も食糧奪取の現場に何度も立ち会っている。

「農民たちが持って行けないよう、銃を持った軍人が脱穀場を守っていて、脱穀が済み次第、全て持って行ってしまう。軍隊だけじゃない。農村幹部たちも、農民が生産物をどこに隠しているかわかっているんで、庭をほじくったり、便所の中まで搜索して取り上げていきます。それがなくなると農民たちに食べ物が残らないのを知りつつやるんで

す。上部からの命令で、規定量を納めないと幹部自身が首になってしまうからなんです。こうキム氏は言う。

生産した端から食糧を取り上げられる…黄海道の農村では、まさに暴力的な収奪が繰り返られていた。こうして「穀倉地帯の農民が飢えに苦しむ」という異常事態が発生したのである。

### ◇黄海道の農村の構造的疲弊

黄海道、特に黄海南道の農村は、軍隊の他、都市の労働者などへの食糧供給基地として、大きな役割を担ってきた。その中でも特に、韓国と対峙する最前線地域の軍団をはじめ、各地の部隊に送る「軍糧米」と、首都平壤の住民への配給食糧となる「首都米」は、最優先の供出課題であった。集団農業に固執している北朝鮮では、協同農場ごとに国家に納める分量が決められ、残りが農民の取り分、すなわち『分配』=収入となる。

だがこの十数年、北朝鮮の集団農業は生産停滞が深刻化していた。本来なら協同農場の生産計画に基づいて、肥料、農薬、種子、ビニールハウス、トラクターなどの農機、燃料等の営農資材が国から支給されることになっているのだが、財政悪化でそれは年々細っていき、近年は、農民が大部分を自己負担させられるのが常態化していた。

さらに、田畑に水を供給する揚水機や脱穀機を動かす電力にも事欠く有様で、穀倉地帯の黄海道でも収穫高は減少が続いていた。加えて今や宿痾ともなった経済難を抱える北朝鮮政府の外貨難は深刻で、非生産組織の軍隊では、末端の兵士に栄養失調が蔓延しているのは、我々これまで報じてきた通りである。

このため、農民の負担は増え続ける一方だった。収穫は減少しているのに、国家には規定どおりの量を納めなくてはならない。約束された農民の取り分の「分配」はどんどん減少し、さらに営農資材も負担しなければならない。「泣きっ面に蜂」の農民の疲弊は募るしかなかった。

「春の田植えや種蒔きの時期、肥料や種子を多くは農民が負担して準備しなければならないのだが、農民に金がありますか？協同農場の幹部から、秋の収穫後に返済する約束で借りなければなりません。もちろん利子がつきます」

と、前出の党幹部のキム氏は言う。まるで封建時代の地主と小作農の関係である。

このようにぎりぎりの暮らしを強いられる農民たちは、生き延びるために収穫や脱穀の時に少しずつ生産物をくすねるようになったのである。だが、そのささやかな抵抗も、黄海

道を狙い撃ちにした暴力的な「根こそぎ収奪」によって困難になったことは、冒頭で述べたとおりである。

特に 2012 年の場合、前年夏に黄海道一帯を襲った台風被害の影響があった。当時の様子を黄海南道〇〇郡の農村幹部リム氏はこう振り返る。

「2011 年は大雨で多くの田畑が流失して生産が相当減りました。にもかかわらず、軍隊や役人が収穫期に来てすぐに食糧を持って行ってしまった。そのせいで、黄海道の農村では収穫から間もない 1 月に入ってすぐに食べるものが無くなってしまったんですよ」。

このような国家による無理な収奪こそが、穀倉地帯である黄海道で餓死者が大量発生する引き金を引いたのである。付言すると、100 万～300 万人が餓死したと見られる 90 年代後半の「苦難の行軍」期、黄海道の農村は餓死者が北朝鮮全土でもっとも少なかった地域であった。

#### ◇政治偏重の浪費で被害はさらに拡大

2011 年 12 月 19 日、17 年間にわたり絶対的な権力の座に君臨していた金正日総書記が死去した。それから 4 月末まで間、北朝鮮は政治行事一色であった。金総書記の葬儀、世襲後継者・金正恩氏の「指導者デビュー」、「ロケット発射」、4 月 15 日の故金日成主席生誕百周年など、国家的イベントが相次いだ。一連の行事には多くの民衆が動員され、莫大な資金が投入された。非生産的な「政治的な浪費」が続いたのである。

金正恩氏への権力移譲を安定的に進めることが、北朝鮮政権の当面の最重要課題である。そのため、体制維持に欠かせない人民軍と、多数の党員・幹部が住み、政権への忠誠度が高い平壤市民への配給をなんとか維持することが優先事項とされた。中国を親戚訪問で訪れていた平壤の女性は 8 月、取材班にこう語っている。

「2012 年になって、平壤の中心区域ではここ数年で最も安定した食糧配給が行われている。毎月欠かさず労働者には 14 キロが、それ以外の人々には 7 キロの配給がある」。限られた物資を、優先配給対象の平壤へと集中させていたようである。

「強盛大国の大門を開く」と公言した 4 月 15 日に合わせ、前年から急ピッチで進められていた平壤再開発事業に貴重な外貨、資源、労働力が集中投下されたことも、明らかに「政治的浪費」であった。10 万戸を目標にした高層アパート建設、巨大な遊園地、イルカショー施設などの不要不急の施設の突貫工事が相次いだ。そのために全国から動員された「突撃隊」と呼ばれる作業組織、大学生、建設労働者に供給する食糧も大量に必要なになった。

黄海道の農民たちは、生産物の収奪という形で、こうした「政治的浪費」のツケを払わされたのである。もし、平壤再開発事業に使われた貴重な外貨が、食糧輸入や営農資材購入に当てられていたら、2012年、黄海道で大量の餓死者が出るほどの人命被害は発生しなかったのではないだろうか。

金正日総書記の急死という事態も、農民の暮らしに打撃を与えたようだ。ク記者は次のように説明する。

「黄海南道の海沿いの地域の農民たちにとっては、農閑期の10月末から3月にかけて、海（黄海）で貝や魚や海草を採って得る現金や食糧が、春まで食いつなぐための生命線なんです。しかし、金正日の死去から2か月間、統制強化で海岸に出ることが禁止されてしまいました」。

黄海南道は海上の軍事境界線で韓国と対峙する最前線であるため、政治的緊張の影響を受けやすい。また、近年、海から韓国に脱出するケースが相次いでいた。金総書記の死による全国的な統制強化の波は黄海道にも及び、農民たちにとっては、生産物を収奪された上に副収入の道まで絶たれる追い打ちとなってしまったのだった。

#### ◇金正恩氏による対策指示もでたらめ…飢饉は「人災」

では、金正恩政権は、黄海南道の深刻な飢饉の発生を知っていたのだろうか？答えはイエスである。黄海道の党中堅幹部キム氏はこう明かす。

「4月には金正恩の耳に『黄海道の農民が飢えて動けず、農作業が進んでいない』という現地からの報告が届いたんです。それで金正恩はすぐに軍に対策を指示したと上層部から聞きました」。

命令を受けた軍は、戦時用に貯蔵していた食糧の一部を分け与えたという。

「6月の農繁期になって『二号倉庫』と呼ばれる戦時用の備蓄物資の倉庫から、一日にトウモロコシ 500 グラムが配られました。しかし、受け取れるのは実際に働く農場員だけだったため、500 グラムをひと世帯で分け合う家もありました。そんな『支援』も数日で終了してしまっただ」(農村幹部・リム氏)

他の黄海道の人間に話を聞いてみても、飢饉発生への対処は、やはり「500 グラム」「数日間」に過ぎなかったと証言した。最高指導者の指示は焼け石に水に過ぎなかったわけだが、そもそも指示自体がでたらめだと言うしかない。黄海道の飢饉発生 of 直接的な原因は、国家による「軍糧米」「首都米」名目の農民収奪にあったわけで、その対策を軍に立てるように指示したというのは、いかにも場当たりで、人命を救う解決策とはとても言えないものだった。



飢餓に苦しむ農民たちに対し、その後国家から何の援助も行われることはなかったというのが、証言者たちの一致した見解であった

これまで見てきたように、2012年の『黄海道飢饉』は、既に疲弊の極みにあった農民が、暴力的な収奪を受けることで、限界を超えたために発生したものだ。さらに政治イベントが連続し、農民の窮状が無視され続けたことが被害を拡大させた。まさに『黄海道飢饉』を「人災」と称す所以である。金正恩政権はスタートから大きく躓いたといわざるを得ない。

6月を境に、黄海道飢饉は、一旦峠を越えたようである。しかし、北朝鮮内部からは、2012年度の不作を予測し、これからの生活を憂う声が相次いで届いている。国際社会は黄海道の人々の食糧事情に格別な関心を向けて欲しい。

### 北朝鮮の食糧輸入量

2010	63,908,000 米ドル
2011	125,634,000 米ドル
2012 (1月-5月,中国からの輸入量)	43,098,000 米ドル

データ出处:韓国貿易協会(KITA)

\*\*\*\*\*



**【石丸次郎】**

1962 年大阪生まれ。アジアプレス大阪オフィス代表。

韓国ソウルに留学ののち、93 年に北朝鮮・中国国境 1400 キロを取材。北朝鮮国内には 3 回入国し取材。北朝鮮・中国国境地帯での取材は 80 回におよぶ。これまで 750 人の北朝鮮人をインタビュー。北朝鮮人のジャーナリスト育成活動を続け、現在、北朝鮮からの通信「リムジンガン」を発行。

---

**【ク・グァンホ(具光鎬)】** 구광호

ピョンヤン市に住む 30 代のジャーナリスト。アジアプレス北朝鮮取材班から取材の訓練を受けたのち、2011 年から取材活動始める。

これまでにピョンヤン市内と平安南道のビデオ取材を 3 度成功させている。2011 年撮影した栄養失調の軍人の姿は世界中に発表され、大きな反響を呼んだ。